

第121回 経営協議会議事録

日 時 令和6年3月26日（火）14時00分～15時05分

場 所 和歌山大学南1号館（事務局棟）3階共通会議室

出席者 本山学長

下委員、清木委員（オンライン参加）、田村委員、辻委員、西平委員（議題2から出席）、矢倉委員

添田、尾久土、松本、中川、山形 各理事

（柏原監事、松原監事、マグレビ副学長、藤永副学長、田川学部長、野村システム工学部長、佐々木評議員、満田戦略情報室長、南方副理事、細野企画課長、猪原財務課長）

欠席者 島委員

学長から、第119回（令和5年11月7日）及び第120回（書面審議）の議事録について確認があった。

議 題：

1. 就業規則等の改正について（給与関係）

添田理事から、教職員就業規則の改正について、資料1に基づき説明があり、審議の結果了承した。

2. 令和6年度当初予算（案）について

松本理事から、令和6年度当初予算（案）について、資料2に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・私立大学への国からの補助金率は8～9%と低い。また、18歳人口が減少する中で、恵まれた立地条件にある大学であっても、学生確保が厳しく、今後の経営の難しさを感じている。私立大学と国立大学では、立場は違うが、どちらも国からの支援が少なくなっており、大学の存続することの大変さを感じている。

→そのような厳しい状況の中でも、本学としては、引き続き人材育成に努めていきたい。

報 告：

1. 令和4事業年度における剰余金の翌事業年度への繰り越しに係る承認について
松本理事から、令和4事業年度における剰余金の翌事業年度への繰り越しに係る承認について、資料3に基づき説明があった。
その他：
学長より和歌山大学に期待すること等について、意見交換を行った。
(主な意見)
・和歌山大学は、県内に設置されている大学として、地域の課題解決を行うなど、地域に貢献する役割を期待する。大学生については、大学の外に出て地域に入りこみ、活動してほしいと思う。和歌山大学出身の県職員も多く、幹部として活躍する方もおられる。これからも優秀な人材を育成し、地域に供給していただくことを期待する。
→本学が中心となり、県や産業界等と連携し地域連携プラットフォームを構築する予定である。学生が県外に就職した後も、県に帰ってくるような循環型の人材育成について、具体的に検討を行い、和歌山県を盛り上げたい。
・和歌山大学が、これまで以上に、子供たちから憧れられる大学となること、また、地域を愛せる人材を輩出する大学となることを期待する。専門教育を重視する工業高校は、普通科高校と異なり、大学入試共通テストに対応しづらい面があるが、工業高校には学力が高く熱意の高い生徒もいることから、そのような生徒が和歌山大学で学べる機会が増えることを期待する。
→教育学部において、大学入試共通テストを課さない学校推薦型選抜（きのくに教員希望枠）を実施しており、工学の分野において、「技術」の教員免許取得を目指していただいている。システム工学部においては、高校で探究的な学習を行っている女子生徒を対象として、大学入試共通テストを課さない学校推薦型選抜（女子枠）を実施することとしている。工業高校においてもポテンシャルが高い生徒がいることから、選抜にあたり、普通科高校のみに固執しないようにすることの必要性は認識している。
・県内の中小企業としては、大卒の学生ではなく、高卒の生徒を、主な採用対象者として考えていたところである。高校生のレベルを上げるため、クラスの人数を減少させることも必要と思う。また、中小企業にも、さらに大学生が就職するようになれば、企業側からも大学への寄附が増えていくのではと考える。

→地域の企業に、大学生を研修に派遣させていただく環境を作ることも必要と考える。観光学部では、地域連携プログラム（LPP）を実施しており、県内の現場等で学生が自発的に学んでいる。今年度設置した専門職大学院においても、多くの学生が現場に出て活動している。

・和歌山大学で日本語を学びに来られる海外の学生がいることは、かけがえないことだと思う。日本人の大学生が海外に出て学び、内面が成長し、強くなって戻ってくると良いと感じる。また、和歌山大学の学生が県内の飲食店でアルバイトをしており、学生が県を盛り上げて、地域との関わりを作っているのありがたいことと感じる。

→短期留学で和歌山大学に来た海外の留学生の多くが、再び本学に来ることを望んでいる。4月から国際交流の基金を活用し、留学生の受入れと日本人学生の海外留学を支援する予定である。また、大学と地域との関わりを作るうえでも、松下会館を有効活用していきたい。

・報道機関として、これからも大学の取組みを発信したい。地元の企業に勤める学生に加え、起業に挑戦する学生を増やしていただければと考える。学生にとって、大学教授は遠い存在であると思うが、ティーチング・フェローのように、教員との橋渡しをする存在が学内にいれば良いと思う。温かい校風が魅力的であると感じている。共に和歌山県の課題解決に取り組めればと思う。

→報道関係の皆様には、本学のニュースを効果的な時間に放送していただくとありがたいと考える。

・大学数が少ない和歌山県において、和歌山大学は県内の大学全体を引っ張るような立場であると考え。4月で国立大学が法人化して20年経つが、最近の動向を聴いていると、大学が国の拘束から離れて自由になるというより、国の規制がかえって強まっているのではないかという懸念もある。国からの規制とうまく折り合いを付けながら、大学として、伸ばしたい点を伸ばしていかれてはと思う。今後の大学の発展をお祈りする。

また、最後に、学長から、3月末で退職される尾久土理事と中川理事の紹介があり、それぞれの者から挨拶があった。さらに、学長から、今年度末で任期満了を迎える学外委員へのお礼の挨拶があった。

以 上